

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	1473700829
法人名	有限会社 グループホームそよ風
事業所名	みどりのそよかぜ
訪問調査日	平成19年11月13日
評価確定日	平成19年12月18日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

【取り組みの事実】

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

【取り組みを期待したい項目】

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

【取り組みを期待したい内容】

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1473700829		
法人名	有限会社 グループホームそよ風		
事業所名	みどりのそよかぜ		
所在地 (電話番号)	横浜市青葉区みずが丘26-15 (電 話) 045-974-3801		
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成19年11月13日	評価確定日	平成19年12月18日

【情報提供票より】(19年9月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 9月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	38人	常勤 7人, 非常勤 31人, 常勤換算13. 3人	

(2) 建物概要

建物構造	RC 造り 2階建ての 1階 ～ 2階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	47,000 円
敷 金	300,000 円		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 200,000 円	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食 250 円 夕食 450 円 または1日当たり 1,100 円	昼食 350 円 おやつ 50 円 (月額 33,000 円)	

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	25 名	男性	5 名	女性	20 名
要介護1	4 名	要介護2	8 名		
要介護3	7 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 82 歳	最低 66 歳	最高 95 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	野村クリニック、山口皮膚科、水野整形外科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは東急田園都市線あざみ野駅からバスで10分の、閑静な住宅地にある。事業所の運営方針は、利用者が住み慣れた地域の中で生き生きと自由に暮らし、自己実現ができるように支援することを目的にしている。
ホーム長が看護師であり、提携医の往診は、内科は月2回、歯科は年1回の検診がある。このほか医療機関との提携により、24時間365日の医療体制を整えている。ターミナルケアの受け入れ体制もある。
四季折々の行事があり、地域の行事にも出かけている。コーラスなどのボランティア、体験学習の小中学生がホームを訪れている。また、家庭菜園があり、収穫を楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価では改善課題はなかった。この1年間の自主努力としては、内部研修を毎月実施し、職員のスキルアップを図った。また、自己評価「求められる職員像」を実施し、自己研鑽を図った。
重点項目	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回で4回目の受審である。自己評価は、内部研修で意義を周知し、全職員が分担して作成した。評価結果は毎回、利用者・家族・職員に説明し、改善に取り組んできた。また、評価結果は全家族に印刷して郵送した。自己・外部評価結果は誰でも見られるように玄関に置いている。運営推進会議でも取り上げる予定である。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 平成19年10月24日に初開催された。利用者・家族・自治会長・同副会長・ケアプラザ所長・ホーム長・事務長・職員が参加した。会議では施設見学・活動内容の説明、意見交換を行った。自治会からボランティア、不法投棄対策などについて協力の話があった。今後も2～3ヶ月に1回程度開催して、サービスの質向上に積極的に取り組む意向である。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見、要望は来訪時に聞いている。相談・苦情の申し立て先は、重要事項説明書にホーム・市町村・国保連の窓口を記載している。玄関にはご意見箱を置き、連絡先を明記したポスターを貼っている。家族会については設立の要望が少なく、懇親会を設けている。これまでに苦情になるような問題は発生していない。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、公園の掃除(愛護会)、バーベキュー、もちつきなどの地域行事に参加している。毎日の散歩で顔見知りの輪を広げたり、ホーム便りを回覧している。歌謡舞踊、コーラスなどのボランティア、体験学習の小中学生がホームを訪れている。事業所主催の夏祭りやバーベキューに地域の人を招待したり、介護教室を開催している。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの事業所独自の理念「奉仕の精神を専らとし、粘り強く、あきらめず入居者と共に学び続け、地域社会に貢献する」を踏襲している。利用者が、住み慣れた地域の中で地域の人々との交流を通じ、生き生きとその人のペースで自由に暮らし、自己実現ができるように支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、各ユニットの事務室に掲示されている。毎朝の申し送り、ユニット会議、内部研修で話し合いの機会を持ち、理念の共有を図り日々のサービス提供場面に活かせるように意識づけをしている。また、自己評価「求められる職員像」を実施し、評価項目の「運営理念の理解」について確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、公園の掃除、バーベキュー、もちつきなどの地域行事に参加している。毎日の散歩で顔見知りの輪を広げ、ホーム便りを回覧している。歌謡舞踊、コーラスなどのボランティア、体験学習の小中学生が訪れている。事業所主催の夏祭りやバーベキューに地域の人を招待したり、介護教室を開催している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回で4回目の受審である。自己評価は、内部研修で意義を周知し、全職員が分担して作成した。評価結果は毎回、利用者・家族・職員に説明し、改善に取り組んできた。また、評価結果は全家族に印刷して郵送した。自己・外部評価結果は誰でも見れるように玄関に置いている。運営推進会議でも取り上げる予定である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年10月24日に初開催された。利用者・家族・自治会長・同副会長・ケアプラザ所長・ホーム長・事務長・職員が参加した。会議では施設見学・活動内容の説明、意見交換を行った。自治会からボランティア、不法投棄対策などについて協力の話があった。今後も2～3ヶ月に1回程度開催して、サービスの質向上に積極的に取り組む意向である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所の担当者とは日常的に事業の相談・連絡を行っている。また、研修・会議の通知があれば参加している。介護教室は毎年1回受託している。ホーム長が認知症介護やケアマネ研修の講師を務めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は、家族の来訪時に説明し、突発的な病気・ケガは、電話で知らせている。月1回請求書を家族に郵送する際に「近況報告書」と「ユニット通信」を同封し、暮らしぶりを伝えている。また、預かり金は「金銭残高報告書」に領収書を添付して請求書に同封し、確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望は来訪時に聞いている。相談・苦情の申し立て先は、重要事項説明書にホーム・市町村・国保連の窓口を記載している。玄関にはご意見箱を置き、連絡先を明記したポスターを貼っている。家族会については要望が少なく、懇親会を設けている。これまでに苦情になるような問題は発生していない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設初期は管理者・職員の異動が多かったが、その際は利用者に一日も早く馴染んでもらうため、引継ぎ期間を十分にとり、信頼関係を構築し不安解消に努めた。職員の定着を図るため、個別面談によるメンタルケア、計画的な研修により業務の理解とモチベーションを高めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は、日常業務を「経験チェックリスト」で確認する。外部研修は、認知症・感染症・ターミナルケアなどに参加している。月に1回の内部研修は、看護師でもあるホーム長が行うほか、外部研修を受講した職員が研修内容を発表し、スキルアップを図っている。「自己チェックシート(中堅・新人)」で自己評価を半年ごとに実施し、面談を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に加入し、横浜市からの委託研修(職員研修、成年後見人、口腔ケア、介護技術)に取り組んでいる。同業者のグループホーム間で交換研修を行っている。また、ホーム内の主任会議や複数のグループホーム長会議でも意見交換を行い、サービスの質向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム長・ユニット主任が入居希望者の居宅を訪問し、利用案内書でホームの説明を行い、見学してもらい、納得してもらってから入居を決めている。入居前に懇親会に参加してもらいホームの雰囲気を覚えてもらったこともある。利用者が馴染み落ち着くまでは家族の訪問を多くしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者からは料理・裁縫・ぬか漬けなどを教わったり、悩みを聞いてもらうことが多い。室内の飾り付け、日めくりカレンダーづくり、料理の手伝い、洗濯物たたみなどを利用者と職員が共に行い、お互いに支え合っている。家族と共に春秋の遠足や懇親会などを行い喜怒哀楽を共にしている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の把握は、入居面談フェースシート・独自のアセスメントシート・東京センター方式のアセスメントシートで、様々な角度から利用者と家族の意向や希望を把握している。利用者の日々の行動を観察しアセスメントシートに書き加え、全職員が共有するよう努めている。意向の把握が困難な利用者には、声かけで意向の確認を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員でカンファレンスを行い、利用者・家族の意向を確認している。残存機能を引き出すなど、利用者の視点に立った個別具体的な介護計画を作成し、家族には説明し、同意をもらっている。ケース記録には介護計画に沿った経過記録が記入されていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要の関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居間もない時期はこまめに介護計画を見直している。心身の状態が安定している利用者については、2ヶ月に1回見直しをしている。家族に同席してもらうこともある。全職員でモニタリングを行っている。また、状態の変化を察知した場合は、随時カンファレンスを開催して介護計画の見直しを行っている。認知症専門医にも意見を聞いている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した場合は、看護師であるホーム長が病院と連携して、早期退院支援を行っている。医療保険のリハビリを利用している利用者がいる。24時間365日の医療連携体制がある。また、認知症専門医の支援がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人や家族が個別に医療機関を利用している。協力医療機関の往診は、内科は月2回、歯科は年1回の検診があり、緊急対応も可能である。利用者・職員全員が年に1回(夜勤職員は年2回)健康診断を受診している。診断結果は常に家族に連絡している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、「常時医療機関において治療をする必要がないこと」を条件に、本人・家族・医師と面談し、そのつど方針を決め受け入れている。話し合いの内容は、アセスメントに記録する。1年前に1回看取りが行われている。職員はターミナルケアの外部研修を受講し、内部研修も実施している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に個人情報保護の説明を行い、同意を得ている。重要な書類は職員室の戸棚に施錠保管している。職員は利用者の尊厳を守ることを研修を通じて学習し、実践している。調査日の職員態度、言葉使い、トイレ誘導は穏やかでさりげない対応であった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのスケジュールで生活するのではなく、利用者一人ひとりのその日の希望を聞いて、暮らしを支援している。必要以上に手を出さず、見守り主体の自立支援を実践している。家族と一緒にレクリエーションに参加したり、買い物に出かけている。入居者同士で会話を楽しむなど自由な姿が見られた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中はテレビを消して、利用者と職員が同じテーブルにつき、楽しい会話をしながら同じ食事を取っている。ホーム専用の家庭菜園があり、畑で作った旬の野菜が食卓に出る。利用者は料理、配膳、下膳などを行っていた。それらができない人は、もやしのひげ取りなど、できることを行っていた。職員は介助の必要な利用者の隣に座り、さりげなく介助をしていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聞き、平均的には週2回入浴している。入浴を楽しんで貰えるように、浴室の飾り付け・入浴剤・フラワーバスなどの工夫を行っている。入浴を好まない人には無理強いしないで、次の日に誘う。現在、同性介助の希望はない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が張り合いのある生活を送れるように、一人ひとり能力を生かして、調理・手芸・レク・読書・カラオケ・麻雀などの活動を支援している。このほか四季折々の年間行事があり、家族も参加している。高齢者向きエアロビクスを、講師に訪問してもらい行っている。ホーム専用の広い家庭菜園があり、収穫を楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が毎日付き添い、近隣の公園などに散歩に出かけている。春秋の遠足では家族も参加して鎌倉やサファリパークに出かけている。外出時の楽しそうな写真がホーム内に掲示されていた。菜園でじゃがいも堀りやさつまいも堀りを楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は玄関は施錠しないで、見守りで対応している。安全のためセンサーによるチャイムを設置している。居室は、利用者が居室内から掛けられるようになっているが、外からも開けられる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年に2回消火・避難訓練を実施している。近所の人に参加を呼び掛けているが、これまでは参加は無かった。 地域との防災協定および非常用食料・飲料水・備品の備蓄については今後の課題である。	○	自治会や自衛消防団などと(相互)防災協定を締結し、合同で防災訓練を行うなど、緊急時に地域から協力が得られるような体制を作ることが望まれる。夜間を想定した訓練も行いたい。また、非常用食料・飲料水・備品の備蓄が望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂食量・水分摂取量などを記録している。栄養士の職員が利用者の嗜好を把握し、栄養バランスやカロリー計算をして、毎日のメニューを作成している。嚥下体操を日課にしている。一人ひとりの状態に合わせて、刻み食・ミキサー食などが提供されていた。このほか、毎日の排泄・バイタル・体重・入浴などを記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に明るく開放感がある。リビングにはソファや小上がりの畳がある。共用空間には手作りのカレンダーや季節の飾り（花・ハロウィンなど）、行事の写真などがある。風通しをよくするため、居室の扉を空け様々な暖簾風のカーテンが掛けている。廊下には当法人の社長が描いた油絵が飾られている。仲の良い利用者同士が三々五々寛いでいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の書面説明で、使い慣れた愛着のある家具などの持ち込みを勧めている。居室には馴染みの整理だんす・テレビ、愛着のある人形・写真などが持ち込まれ、居心地よく過ごせる工夫がされている。家族の急な宿泊希望に対応するため、布団を用意している。		

(様式1)

自己評価票 ひとユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念をもっている 各ユニットに提示し、常に目に入る様努めている	○	職員に理念が十分浸透するよう、積極的に活動していきたい
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員の面談時は、必ず理念についてふれ ている	○	理念の重要性について再確認の場をもつ
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月発信している家族への通信で、協力・参加をよびかけ、また報告している	○	家族と直接対話の場をより一層持つ
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者が回覧板をもっていく等、隣近所とのつきあいに努めている 行事・施設見学を自由にしている	○	ポスター等、事前の広域外部への告知
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	参加情報を各ユニットに配信し、利用者の参加を促している。参加できるものには積極的に参加し、地域とのつきあいに努めている	○	参加できる利用者を増やしていきたい 交流の向上に努めたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室の実施	○	より一層地域に貢献できる様、考えていきたい
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	玄関に評価をファイリングして置いており、誰でも見ることができる。研修などを通してその意義を説明されており、評価から自らの介護を振り返り、より良いものを構築する手段としている。	○	昨年の結果も皆で確認し、サービスの向上に向けた話し合いを行なっている
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	横浜市からの指示もあり、実施が遅れていたが現在、開催に向けて準備中	○	外部から意見をもらうことで、新鮮に受け止め、より一層のサービス向上に努めて行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の研修や会議などで交流をもっている	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修などで学ぶ機会をもっており、必要に応じて活用できるよう取り組んでいる	○	すべての職員が周知できるようにしていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修をして、学ぶ機会をもっている。また、注意・防止に努めている	○	「虐待・虐待と想われる行為は行なわない」という目標を掲げ、日々サービス提供を行なっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を实践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な面談の場をもち、不安や疑問は解消できるよう努力している。	○	面談の場以外での疑問や不安についても、解消できるよう連絡体制をとっている
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で、それが円滑に自然とできる様な環境をつくり、また報告体制もとっている	○	利用者の訴えには常日頃から関心を持ち、職員が利用者の気持ちを代弁できるよう心掛けている。職員の意見を通して利用者の思いをよく理解し運営に当たっている
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	常日頃のことは、面会時に必ずお話する。その他特段の変化等についてはその都度、電話連絡等行なっている 近況報告書を3ヶ月に1度出している。また、毎月のユニット通信で報告している	○	今後も継続するとともに、面会時の関わりを大切にしてい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満・苦情があった際は、対応できるよう記録用紙が準備されており、経過を追って対応できるようになっている 玄関ホール内にご意見箱を設置し、意見を表出しやすい環境づくりに努めている。	○	家族とのかかわりを、密になるよう心がけ、話しやすくなるよう努めている。(面会時・電話連絡・行事などで)
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主任会議・ユニット会議を設けている。また、日常より、施設内を積極的に巡回している	○	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	シフトを早めに作成・公開し、調整している	○	職員同士で相談し、助け合いながら勤務調整に努めている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	人材不足が先にたち、職員の固定が難しいところではあるが、利用者のダメージがないよう、様子観察およびその対応はおこなっていない	○	人材の供給部分にも問題があり、市区町村とも連携をとって問題解決していきたい
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験チェックシートや業務マニュアルなど独自のものを作り、工夫している 月1回の内部研修を行い、職員の育成を図っている。外部研修に参加した際は、他の職員にも周知できるよう働きかけている	○	伝達講習を充実させることで、全職員が学ぶことの出来る環境を作り、また学ぶ必要性を理解できるようにする
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市グループホーム連絡会を通して、サービスの質向上を図っている	○	頻繁ではないが、レクリエーションなどを通して交流している
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	話し合いに応じる準備は見受けられる	○	職員意識の理解とより良い職場環境の形成よりよいサービス提供へ向けての指揮
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	時給のアップ（昇給） 上司と職員の交流による活気をアップすることに努めている	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人のその時の状態を観察し、会話して不安を取り除くように努めている 何を求め、何が大切かの理解はなかなか難しいが、理解できるよう努力している	○	不安・苦痛を早く受け止め、説明・対処して安心感を与える 本人の要求を知り、理解する
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	傾聴し、希望などを取り入れている	○	家族側の状況、困っている事などの把握
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて支援の態勢がある	○	他サービス機関と内容を知る
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	それぞれかかえている問題点は異なるが、各人に合った対応をしている	○	他施設や家族の状況などから十分な時間を使うことは困難であるが、事前に顔合わせをし、安心できる空間であると感じていただけるよう配慮している。 家族とのコミュニケーションを増したい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	各人の思いは、共感・理解する様、努力している。 参加(能力)可能な分野での共同作業はやってもらっている。その折は会話もはずむ	○	職員も利用者に支えられながら日々の業務は行なわれており、喜怒哀楽を含め一緒に過ごしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族来所の折、情報交換している 必要に応じた関わりができるよう支援している	○	入所までの介護の苦勞、困ったこと、本人の暮らし方等、情報収集する
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族来所の折はできるだけ本人との時間を大切にしている 疎遠な家族には電話（緊急時）または近況報告書にて対応している 必要に応じ、認知症についての説明を行い理解を得る	○	ホーム行事（レクリエーション）への参加をよびかけなども、より積極的に行なう
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所なじみの方などが面会に来られるなど関係が維持されるよう支援している 個人情報保護の観点から、入所確認の有無等について返答しかねる場面もあるが、ご家族に連絡してもらい又はご家族から連絡を入れてもらうなどの支援を行なっている	○	本人や家族の意向を探りながら、こちらから関係継続に向けた支援
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活であり、もめごとは避けきれないが、職員が間に入り対応 支え合いはできているが、行き過ぎると逆効果になり難しい点もある	○	利用者間関係には、もめごとが少ないよう配慮している 様々な出来事をきっかけによりよい関係が作れるよう努力していきたい
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所時はケアサマリーなどを提供し、サービスの継続性を図って 必要な方とは、相談を受けたり、継続した関係を行なっている	○	サービス利用終了後も関わっていきたいと思えるサービス提供を心掛ける

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○	必要に応じカンファレンス等で話し合い、本人の思いや意向を職員が十分把握できるよする
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○	ご家族にこれまでの生活歴等の情報がケアに重要であることを理解いただき、情報収集に努める
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○	カンファレンス等でそれぞれの状況について話し合い、職員が理解する
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	○	本人や家族を含めた計画作成となるよう、日々の情報交換を怠らない
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○	日頃から問題提起及びアセスメントを行っており、現状に即した介護計画を立案し、また見直しを行なっている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録についての内部研修の実施 個別に生活記録を細かく記入し、ミーティングで協議し、必要なことは実践する	○	記録の重要性を理解し、研修会を行い、記録の書き方についても常に指導を行なう
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面談等により、介護サービスの変更などで対応している またADL低下やご家族の諸事情の発生を敏感に察し、対応している	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年に1回消防士が来て、消防訓練をしている	○	ボランティアの活用
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて支援の態勢がある	○	必要に応じた対応
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者が中心になって動き、協働している	○	必要に応じた対応

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望があれば尊重し、医療を受けられるようにしている	○	今まで構築してきた関係を大切にしたい受診の支援を行なう
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	利用者の受け入れ等を通じ、認知症専門医との関係を構築している。 その他常日頃より相談できる医師がおり、指示・助言を仰ぐことができる	○	看護師と連携をとりながら、適切な時期での専門医への受診や相談を行なう
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が配置されており、様々な面から相談・支援を行っている	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	そのつど家族と話し合いを行っている サマリーのやり取り等で継続したケアが行えるようにしている	○	「早期退院」と「必要な入院」が実現されるよう連携を行なう
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人と家族、医師と面談をじっくり行い、方針を決めている	○	医療的処置のない利用者については終末期までの受け入れを行なっている
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師と看護師、ケアマネージャーから指示・助言をもらい、準備している	○	本人・家族の意見を重視した中で、最後までその人らしく生きていけるための支援

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	住居移動は負担がないように心がけ、本人にき ちんと説明し、理解をさせる。協力関係者とのコ ンタクトにも努めている	○	今後も負担が軽減できるよう、本人、家族との 話し合いに、日頃からつとめていく
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	プライバシーにかかわる部分については周囲に 気付かれない程度の声かけを行なうなど、配慮に 心がけている 記録は目に付かないところに収納している	○	個人個人を考え、周囲へのプライバシーを保ち ながら、さりげない介護に取り組んでいく
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	なるべく本人の意志や希望がかなうように、一 人ひとりを尊重している。 お誕生日などには本人の嗜好などをたずね、希 望がかなうように考えている	○	自己決定を大切にした支援
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	それぞれの状況やペースを理解した上で対応 し、業務優先にならないようにサービス提供を行 なっている	○	目先の業務が主にならないように、職員間で 「その日」を希望にそって過ごせるよう考えてい く
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	朝・夕の洗面など、基本的な身だしなみの心掛 けはできている	○	理美容など、今まで通り支援し、また、本人も 清潔や身だしなみを心がける

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在のところ、職員からの一方通行にも見受けられるが、機会がある度に食べたいものなどをたずね、取り組んでいく	○	メニューを一方向的に押し付けることなく、利用者の意志、気持ちを踏まえていくよう心がける
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品などを取り入れるようにしている 必要に応じてご家族の協力を仰いでいる	○	利用者一人ひとりが、嗜好品・なじみのものに取り組めるよう努めていく
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	1人1人の排泄パターン、習慣を踏まえ、試行錯誤しながらではあるが、気持ちよくできるようにしている		今後も1人1人に対応できるように職員間で質をあげていく
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	臨機応変に対応できるようにしている	○	入浴を楽しむようには心がけているおり、1人1人の希望がかなうように取り組んでいく
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣に合わせて、個々への対応は出来ていると考えられる	○	現状を継続していく
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの個性を大切にしながら楽しみや役割などを考えている	○	その人らしい喜びと張り合いのある生活になるように心がけて取り組む

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的管理はホーム側で行なっているが、必要に応じて行なっている また利用者によっては小額を所持している方もおり、紛失等のリスクも含め家族と話し合っている	○	今まで通り、一人ひとりの希望がかなうように心掛ける
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、公園へのピクニックなど積極的に行なっている	○	現状よりも一層できるように努めていく
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年2回、遠足に出かけている 職員はある程度のものには対応できるが、その他に情報を得た場合には、ご家族に知らせ、必要な場合には依頼するなど働きかけを行なっている	○	できるだけ今まで行ってきた生活が再現できるよう、外出についてもそれぞれの状況を把握し支援につなげる
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在行なわれている	○	電話・手紙等、現状できている。さらに継続していきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問できる環境があり、必要に応じて支援している	○	来訪しやすい雰囲気を作る。職員にも笑顔と明るい対応で迎えるよう指導されている
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などの職員研修を行なっている	○	「身体拘束は行なわない」という目標を掲げ、日々サービス提供を行なっている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は施錠などせず開放している 居室についてはプライバシーの観点から利用者の判断を重視しながら対応しているが、施錠する利用者も必要に応じた開放については理解をしている	○	玄関のセンサーチャイムに頼ることなく見守りを重視し、傾向をつかんで対応する
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	部屋の配置上、奥まっているところもあるが、見守りのできるところまで職員が出て行って声かけなど努力する	○	安全確認は現状通りだが、より一層見守り強化を考えていく
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤・洗剤等は目に入らないよう扉のあるところに保管しているが、状態に応じて使用できるように配慮している	○	職員が配慮することによって危険リスクは低下するので、よく学び理解できるようにする
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故などは報告書によって的確に報告され周知されている。その報告を基に職員が対応できるよう取り組んでいる	○	ヒヤリハットなどの報告書をもとに、スタッフ間で勉強の機会を持つ
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを通して事故発生時の対応は周知している	○	研修や会議の場などで職員の意識を徹底すると共に、個別に指導する
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練や火災訓練を定期的実施している	○	日頃から地域の方々に協力をお願いする

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	来所の折に近況を報告すると共にリスクについても話し合い納得いただいている。利用者一人ひとりに圧迫感がない暮らしの支援のためにご家族もよく理解し支援くださっている	○	ご家族との情報交換を密に行い、リスクに対応していく
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりを把握することができてはいても、簡潔に報告できているかどうかは今後につなげる	○	業務日誌、アセスメント、記録を通し情報を共有し対応に結び付けていく
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬などは内服薬表を使用し、把握できている 必要に応じて看護師から情報を提供してもらっている	○	それぞれが学び、理解するよう努力する
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬だけに頼ることがないように、自然排泄を心がける 必要に応じて看護師と方針を相談している	○	現状通り、食べ物や水分補給などで自然排便誘発を促す
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケア、入れ歯管理などは行っている 年1回、歯科検診を行なっている	○	昼夜問わず、個々に合わせて口腔ケア、援助ができるようにする
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量については把握できるようにしており、必要量を調整できない利用者についてはそれぞれ支援を行なっている 状況によっては看護師から指示を仰いでいる	○	バランスのよい食事を心がける

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関して勉強会を開いており、マニュアル化もなされている	○	最新情報の周知徹底
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	使用できている	○	冷蔵庫の整理日も決まっていて、賞味期限の確認もしている。また、汚れがある場合は清掃している
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすい玄関周りを工夫している 玄関に自動販売機と椅子があるためか、近隣の方や新聞配達員の休憩場所となっている	○	今後も植栽などを行ない、玄関周辺も常に整えておくことを継続していく
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	楽しく居心地のよい空間作りを心掛けている	○	より一層、居心地のよさを提供する
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、個々が思い思いに過ごせるよう、工夫している	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが思い思いの品を持ち込み、居心地よく過ごせるよう配慮している 特段に自室を持たなかった利用者にとっては、かえって落ち着かない傾向もあるため、居室のみに固執することのない支援を行なっている	○	使い慣れたものが持ち込まれるよう、また本人の趣味趣向の添ったものとなるよう、家族と話し合い、理解を得ながら支援していく
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的な換気を行い、気温にも注意している エアコンのみならず着衣等による温度調節も配慮している	○	家族の来所時にも調整を依頼し、協働する
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーであり、廊下には手すりが設置されている。 できるだけ自立した生活が送れるよう、必要なものはないか日々模索している	○	環境を整える努力を怠らない
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	必要に応じて誘導するが、個々のわかりやすい方法で教え、できることはやってもらう	○	一人ひとりのわかる力を活かすことの重要性を、職員及び家族が理解し支援する
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周囲に関わらず、季節ごとの花等を楽しめる環境にあり、それぞれに活動している	○	畑の整備・収穫の喜びを得ることが出来るよう支援

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様が楽しく過ごせるよう、ご家族の協力や外部ボランティアを取り入れている
利用者様、ご家族と職員参加の下、多種行事を催している
共同生活の利点・欠点を活かしながら、その人らしく、いきいきと生活いただけるよう日々学び、努力しています。まだまだ至らない点はいかと思いますが、よりよい介護サービスが提供できるよう、職員一丸となってがんばっています。

(様式1)

自己評価票 ふたユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	よりよい生活を支援できるよう、常に目標を持つことを掲げながら理念を設定している。 ○	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人研修を行い、十分な時間をかけて説明している。また、話し合いの場を設け、理念の実現を日々確認している。 ○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	月に一度ユニット毎に通信を配布し、またホーム全体からも既刊を発行している。介護教室の開催・回覧板等で周辺地域への働きかけも努力している。 ○	地域へのますますの理解推進。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホーム周辺を歩く方には必ず挨拶をするよう、職員間で共通した意識を持ち、最近では顔見知りの近隣住民の方も増えてきている。 ○	犬の散歩でホーム外周を歩かれる方も多く、利用者が、動物との触れ合いの場を設けることができるよう、計画している。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区センターや自治体で開催される行事に参加し、近隣との交流を深めている。 ○	ホーム開催の行事（夏祭りなど）では、近隣住民の方をお誘いし、交流理解の場を積極的に作るようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方を対象とした介護教室を開催し、理解推進を深めると同時に、相談にも応じている。	○	従来通り、区役所等で開かれる研修に参加し、更なるケアサービスの向上に繋げる。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	あらかじめ内部研修にて実施内容とその意義を学び、職員間で話し合いの場を持ちながらケアの改善に努めている。	○	昨年の結果を現場で話し合い、何度も確認・見直している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	詳細に話し合い、質の向上に繋げている。	○	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	研修・介護教室等、互いに行き来する機会を設けている。	○	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部研修の議題として取り上げ、学んでいる。	○	内部研修欠席者に対し、伝達していく必要があるため、ユニット単位開催会議でも取り上げていく予定である。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束・虐待については、職員間での意識を堅持し、互いのケアが適切かどうか、常に考慮し合っている。また外部研修に参加し、適切なケアがなされているか、確認している。	○	新人職員への指導・教育を深め、職員同士の良識と専門的な知識を育成するよう、会議内で常に確認している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を实践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前はホーム長・事務長が面談に当たり、重要事項説明を行っている。また利用者本人とも面談を行い、現状での不安点・希望などを把握、入所後のケアに繋げている。	○	入所時は主任・副主任が家族および本人と面談を行い、問題点や今後の希望などを詳しく聞き取り、センター方式シートに記入し、ケアに役立てている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の訴え・希望を全職員が都度、気付きシートに書きとめ、申し送りや会議等で綿密な話し合いを行っている。	○	利用者の意見を家族に伝える機会を多くし、職員から家族への働きかけを行う。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時は必ず近況を報告し、利用者の暮らしぶりを把握して頂いている。預かり金はお小遣いファイルに逐一記載し、月に一度収支報告を行っている。	○	身辺状況に変化のあった際は、電話にて連絡を行っている。また月に一度以上、利用者の写真や暮らしぶりの詳細を記載したユニット便りを発行している。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入り口に意見シートを設置し、匿名で自由に意見・苦情を投函できるシステムを設けている。	○	苦情シートを設け、内容から対応まで経過を詳細に記載、要因や課題を密に検討している。また家族が来所した際は面接の場を設け、意見が言いやすい環境作りをしている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員との円滑な関係を構築するよう、常に考慮し、意見や希望等をできるだけ取り入れている。	○	職員ひとりひとりに対する面談の場を設け、意見の言いやすい環境作りに努めている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	シフト作成においては常に本人希望を優先させ、無理のない勤務体制を配慮している。	○	夜勤帯に当たる夕食後や朝食後も、お茶会を開いたりレクを行い、日勤帯夜勤帯に関わらず、利用者との良好な関係を築くよう、職員全員が努力に当たっている。現状では、職員のシフトに問題はないと思われる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の人事異動は稀であり、人間関係の存続という点においては、十分な配慮が成されている。	○	長年勤めた職員が退職する場合は、後任への引継ぎを充分に行い、スムーズな移行を実現させている。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、内部研修を開催し、職員の育成を促している。外部への研修を朝礼で告知し、受講者はその内容を内部研修で発表するシステムとなっている。	○	新人職員・中堅職員にそれぞれ適切な自己評価を定期的に行い、疑問点や改善点を改める機会を作っている。また新人職員についてはチェックリストを作成・実施し、指導側の職員を含めたケアの見直しを常に実行している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム定例会などに参加し、ネットワークの構築・質の向上に努めている。	○	他の介護現場にも従事している職員は、守秘義務を守りつつ良い点を自主的に取り入れている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の希望を優先して取り入れている。	○	職員の希望を取り入れることが難しい場合は、納得の行くまで話し合う機会を設けている。また慰労のための飲み会を設けている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	一日に一度報告を行い、現場の状況や変化を適切に把握している。	○	健康診断を実施している。環境作りのために、適切な援助を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期段階では本人への声かけを多くし、戸惑いや不安を軽減させるケアに留意している。	○	職員が気付きシートによるアセスメントを作成し、利用者の思惑・行動原理を知ること、適切なケアに繋げている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所当日は十分な面談時間を取り、すべてのニーズをその日のうちに整理し、今後のプランを作成している。	○	希望時間帯に電話連絡をし、利用者の状況を報告している。質問には、十分な時間をかけて説明に当たっている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療関係者・ケアマネージャー等と連携した支援を行っている。	○	すべて対応している。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談には応じている。	○	利用者にも十分な説明を行い、なるべく納得する形での受け入れ体制を取っている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や裁縫等、利用者に教わっている職員も多く、支え合いの体制が実現している。	○	訪室した際、利用者に職員が悩みなどを聞いてもらう機会が多々ある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所した際は、生活においての悩みやストレスなどを傾聴し、ストレス軽減に努めている。	○	まず入所当日に自宅での生活ぶり全般を聞き入り、その後徐々に補足し、充実させていくという手法を取っている。家族が来所した際は食堂や居室で過ごしてもらうことで生活空間を熟知し、さらなる意見を求めている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の家族関係を第一とし、疎遠気味になっている家族には、先方の予定を邪魔しない頻度での連絡を働きかけている。	○	家族の認知症ケアを考慮に入れ、対応を行っている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初期の段階で、利用者周辺の人間関係についての聞き入りをを行い、適切な関係を把握している。友人が会いにくるケースもあるが頻度は低く、今後も一考の余地があると思われる。	○	家族来所した際は、近くのケーキ屋に外出されるなど、外の空気を吸われる機会はある。手紙を書かれる利用者もいるが、そのような機会を増やしていくことが課題になる。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	常に配慮し、利用者からの意見を元に席替えを行っている。また、炊事や掃除といった役割関係にも細心の注意を払っている。	○	集団生活である以上、人間関係でのトラブルは避けて通れないが、揉め事があった際は双方の意見をじっくりと聞き、対応している。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所者のケアサマリーを作成、退所後もケア内容の相談に応じる体制は整っている。	○	充分であるとは言えないが、退所利用者の家族が現在も牛乳配達に訪れているケースはある。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○	バックグラウンドを知ることの必要性を家族に理解してもらい、常に情報を提供してもらっている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○	できるだけメリハリのある明るい生活を支援しているが、本人希望を優先させ、拒否のある場合、無理強いは避けている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	○	職員各々が毎日のケアの中から気付いた意見などを「気付きシート」として提出、それを元にカンファレンスを開き、その結果から介護計画を作成している。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○	職員からの意見も十分に取り入れている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	留意点・改善点がピックアップしやすい、実のある記録づけを実施している。	○	研修会を開き、記録の書き方について勉強している。記録の書き方については、常に現場指導している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	症状により、提携病院やサービス機関の情報を提供している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	頻度は高くないが、内容のある協力を受けている。	○	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	相談には応じている。	○	PTを利用している利用者がいる。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	支援を前提とした場を設けることを検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、特変があった際はただちに判断をおおぎ、場合によっては処置を施している。家族への直接の説明も行っている。	○	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医への受診を勧めることはあるが、家族の積極性については一考の余地がある。	○	適切な時期での、専門医への相談・診断の実施。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに看護師が配置されており、すぐに相談・対応をしている。定期的な問診も行っている。	○	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際は適切な対応を取っているが、地域周辺に高齢者施設が多いこともあり、際立った事前提携は実現できていない。	○	幾つかの病院との関係は結べている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望・本人の安楽な生活を考慮し、可能な限りのケアの実施について話し合う場を共有している。	○	ターミナルケアについての、家族の意思・確認。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	チーム内で常に話し合い、看護師・医師の判断を仰ぎながら、早い段階での対応を実施している。	○	家族の協力も得ている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	1号用紙・ケアサマリーの実施を行っている。家 族から十分なバックグラウンド情報の提供を仰い でいる。	○	退所時は、家族関係・バックグラウンド・既往 歴・入所後から現在までの状況を記載したケアサ マリーを作成、情報を伝達している。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	ひとりひとりの性格や個性に合った声かけや対応 を実施している。	○	都度、職員間で適切な声かけや対応が成されてい るかどうか確認している。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	献立会議や一週間の統括等、利用者が意見を言え る場を正式に設けている。	○	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	本人のタイミングで食堂や居室など、好きな場所 で過ごせるようにしている。	○	なるべく活気ある生活を送れるよう、モチベー ション向上の声かけ・生活作りを工夫している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	本人がその日の服や髪型を自分でセットできるよ うに支援している。	○	行きつけの美容院を希望される方については、家 族の協力が得られ次第、外出してもらっている。 また愛用の化粧品がある方は、家族に購入を依頼 している。今後、職員同行での購入も検討。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理や炊事等、利用者と協力しながら行っている。また同じテーブルにつき、会話をしながら食事を楽しんでいる。	○	食べ物の好みには配慮し、嫌いなものがある場合は、可能な限り、別の食材に差し替えている。調理に参加できない方は、食材のチェックをしてもらう等、なるべく食事に関わる支援を行っている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	煙草や嗜好品を楽しめるよう、家族の協力を仰いでいる。	○	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に合った声かけ・タイミングでの誘導をしている。	○	声かけやタイミングを職員間で模索し、利用者にとって心地良い対応を心掛けている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日の指定はあるが、それ以外の日程でも本人希望があれば入浴してもらう準備はある。また、実際に入浴される方もいる。	○	好みの入浴剤を入れたり、定期的に浴室を飾りつけたり、フラワーバスを実施したりし、さらなる快適さと新鮮さを模索している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼寝や居室での一人の時間が自由に取れる生活を支援している。	○	居室にこもりがちで、関係途絶の状態に陥らないよう、それとなく配慮している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	厨房仕事・掃除等、向き不向きを考え、他利用者との関係にも留意しながら、それぞれが役割を受け持っている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員同行で、近所のコンビニエンスストアに個人の持ち物を購入しに行っている。	○	それぞれの力に応じた対応をしているが、全員の金銭所持実現は行えていない。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺への散歩・洗濯物干しやゴミ捨て等、外に出る機械を多く作っている。	○	日常品や食材の買出しへの同行。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	車を使つての外出や外での活動を実施している。	○	家族を含めた外出の機会がある。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からの手紙を本人が受け取り、居室で保管し、いつでも手に取れるようにしている。	○	気兼ねなく手紙・電話のやりとりができる環境作りの強化。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の際、希望に応じ、居室・食堂で過ごしてもらい、レク活動への参加を一緒にしてもらうようにしている。	○	訪問があった際、笑顔と明るい挨拶で迎えるよう、職員に指導している。訪問可能時間の設定はなく、夕食後以降に訪問される家族もいる。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止委員会を設置し、理解を深めている。	○	新人職員への指導・教育を深め、職員同士の良識と専門的な知識を育成するよう、会議内で常に確認している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	認知症の程度に差があり、自他の居室の区別がつかない、またはトイレも判別できない方がいるため、他利用者からの希望あり、必要に応じ、居室に鍵をかけている。出入口は見守り対応。	○	個々が鍵を持ち、自由に開け閉めしている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアには常時見守り職員がいるように努め、所在確認・安全確認している。	○	職員間の声かけ・見守りをする位置に注意している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤・洗剤は目に触れないように引き出しに入れたり、必要に応じて鍵のかかる箇所に保管している。十分な把握能力がある利用者には提供している。	○	喫煙をする利用者があるが、灰皿の清掃を覚えて頂き、灰皿に吸殻が残らないようにしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者の日々の状況は、申し送り・日誌等で把握し、職員で共通理解し、注意している。	○	施設内研修またはユニット会議などで、学び、話し合っている。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設内研修またマニュアル等で意識徹底。また個別の対応説明も行っている。	○	非難訓練や火災訓練を定期的実施している。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行い、自治会にも事前に働きかけている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族が来所した時などに近況を報告するとともに、問題点も話、理解を求めた上で、対応の模索に強力を求めている。	○	定期的に文書にて近況報告をしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個々の持病または留意点を把握して常に様子見注意している 定期的なバイタルチェックを行っている。 入浴時の全身チェックを行っている。	○	異変には看護師に報告している。 専門職の指示を受け対応または看護師が対応している。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服表に薬剤名、効能を明記し職員が把握している。 状態により服薬してはいけない薬もある（糖尿病薬）ので状態の変化に注意している。	○	必要に応じ看護師の指示を受けている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	状態を見逃さない。 繊維質の食材の摂取又は牛乳・乳製品の摂取を心がけている。 散歩・運動などを行っている。 処方による適切な薬剤を使用している。	○	体操・散歩・体を動かすことを行っている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	チェック表を作り食後の口腔ケアに洩れの無いよう支援している。	○	言葉かけを工夫し、拒否のある利用者にもなるべく気持ち良く口腔ケアをしてもらうよう努めている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作り個々の食事摂取・水分摂取を把握している。 体調不良者については看護師に相談・指示を仰いでいる。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	施設内研修又は情報収集された事柄を回覧等で皆に周知徹底を図っている。	○	常に手洗い・うがいの励行。 マニュアル周知徹底を図っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	在庫を常にチェックすると共に週に1～2度買出しに行き新鮮・安全な食材に努めている。	○	衛生管理にはまだまだ個々の良識に任せているところがあるので、共通認識で行っていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りの鉢植えや花を設置し、ソフトなイメージにしている。また、ソファを置き、職員・利用者・来訪者が利用できるうにしている。	○	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームが閑静な場所にあり、穏やかな環境である。	○	季節の花または飾り物を作成したりして、季節感豊かな環境を作っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにソファを置き、思い思いに利用してもらっている。また、自分のペースで過ごせる環境を支援している。	○	寝たきりの利用者がいるが、常に人の気配が感じられるように工夫している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・衣類または趣味の物などを置いているが、自宅から馴染みのある生活用品を持ち込んでいない利用者もいる。	○	衣類などは家族と共に買物に行って、本人の好みを反映したものになるよう、心がけている。家族の都合がつかない場合は、職員が同行している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室の換気は定期的に行い、冷暖房は利用者の適温を配慮している。共通スペースでは掛け物等の配慮も心がけている。	○	定期的に看護師のチェックを受け、医療的根拠からも快適な室温を保てるよう、努めている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアと居室は共にバリアフリーであり、廊下には手摺が設置され、安心して移動できるようにしている。	○	トイレ入口から便器までに手摺があれば、より安全に移動できるため、設置を検討中。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室が分かるように馴染みののれんをかけている。トイレにはトイレと分かる表示をしている。	○	居室を覚えやすくするため、希望者には居室扉に大きく名前を貼っている
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇または鉢植えを置き、花を楽しんだり、水遣りの世話をしている。また入口の椅子に座って語らったり楽しんだりすることもある。	○	外の物干し場まで利用者と共に干しに行ったり、取り込みに行ったりしている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「家庭的」「その人らしく」「自立」を主に、残存機能を低下させずに日々の中で楽しみを見出しながら個人個人に合わせたペースで生活できるよう支援しています。

またカンファレンスや内部研修の機会を多く持ち、スタッフ全員で本人の尊厳を保持した介護方法を学び、認知症介護におけるスキルアップを図っています。現在、地域交流を推進し、今後はさらに力を入れ交流プランを組んでいく予定です。

(様式1)

自己評価票 みユニット

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念を掲げ、日々サービスを行なっていくように浸透させている。 (ホーム理念を掲示したり、会議を通してなど)	○ 今後も続けていく
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に基づき、朝のミーティング、ユニット会議などで共有し、日々の業務の中で取り組み実行している。	○ 今後も続けていく
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ホームの便りとして地域の回覧又は自治会、そしてご家族に説明等させていただいて、理解していただけるよう取り組んでいる。	○ 今後も続けていく
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	回覧板をまわすなど近所の方々との関係を深めている。 利用者スタッフ共に外出の際など近所の方々への挨拶や会話を通し関係を深めている。	○ 日頃からの挨拶や会話等を通して地域の方々にホームを理解していただき、気軽に行き来できるようにしたい。(ホーム行事の参加を地域の皆様にも促して交流を深めたい)
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域住民の一員として自治会に加入して地域活動に参加している。	○ 地域で行なわれる行事・地域活動に参加を今以上に心掛け、ホームとしてのアピールや地域活動に協力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室を開催している。	○	ホーム独自の講習会を開き、地域の方々へ参加を促し、地域高齢者に役立つことはないか模索しながら取り組んでいきたい。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	内部研修などを通し、内部・課胃部評価についての内容等を理解し、それに添った話し合いを持ち、計画を立て実行している。	○	改善項目があれば積極的に話し合い改善していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	未実施 現在会議設置にむけて準備中	○	横浜市からの指示にて実施が遅れていたが、実施に向けて取り組んでいる。地域や関係団体等の協力を得て、より良いホームとなるよう役立てていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所代表が、横浜高齢者グループホーム連絡会などを通して、会議などに参加し情報を得、スタッフと共有するなどサービス向上に向け取り組む姿勢をとっている。	○	今後も続けていく
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部・外部研修に積極的に参加を促し、勉強会等を開き学びながらサービスに取り組むようにしている。	○	今後も続けていく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ間の情報を密にして虐待が行なわれていないか注意し、防止に努めている。	○	今後も続けていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を实践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所代表が詳細に利用者・家族に不安や疑問がないよう留意し事細かに説明。理解・納得を得ている。	○	今後も続けていく
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に対して日々の様子観察やスタッフ間の利用者情報を通し、実際に面談、本人の話を傾聴しながら意見・不満について問題点を掲げ解決している。 苦情に対する外部への連絡先の掲示等もある。	○	今後も続けていく
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来所時にはご本人の様子について伝え、共に方向性を探るなど行なっている。 ユニット通信、近況報告書などを通し心身の状態他の報告、ホーム行事など行われた際の写真などを通し、ご家族との関係を密にしている。	○	今後も続けていく
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、家族面談を通し、ご家族のホームに対しての意見等を聞き、運営していくうえでの参考や配慮事項としている。	○	今後も続けていく
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフの個人面談を通し、業務・人間関係がスムーズに進めていけるよう機会を設けている。	○	今後も続けていく
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務表作成決定までに柔軟かつ十分な時間をかけ対応し、勤務調整をしている。 職員それぞれも協力をしている。	○	人員不足も深刻化している中ではあるが、できる限り継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	主軸となるスタッフ（常勤など）は継続的に支える体制となっている。また、スタッフが変わるときは引継ぎを行い詳細に伝えるよう配慮している。	○	スタッフの定着率が高まるよう努力していく
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤・パートに関わらず研修（内・外問わず）には情報を提供し、参加する場合も勤務体制に配慮している。 勉強会（内部研修）は月1回行なっている。	○	今後も続けていく
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と互いに職員の質を高めるために交流会又は研修（他施設にて研修）等に取り組んでいる。	○	今後も続けていく
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者又は主任等がストレスを軽減するために話し合いを持ち、かつ、勤務体制の工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	今後も続けていく
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	会議などにて問題点を挙げ、解決していく方向性を見つけ次のステップに取り組んでいく働きかけをしている。	○	今後も続けていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日常生活の仲での様子を伺い、安心した生活を送ることが出来るよう努めている。	○	今後も続けていく
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族から気軽に要望や意見を伝えていただけるよう努めている。	○	今後も続けていく
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの情報提供をいただき、初回観察の中から必要な支援を見極め、対応していけるよう努めている	○	今後も続けていく
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に訪問し、本人の話を傾聴し馴染んでいただき、大きな変化を感じないよう努めている。	○	今後も続けていく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは本人を介護される一方の立場におかず共に生活をするよう心掛けている。 家事やレクリエーションを通して共に過ごし、学びあいながら支え合って生活している。	○	今後も続けていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	毎月ユニット通信をお届けし、行事などの参加を促し、様々な点で共有しながら生活できる関係を築けるよう努力している。	○	今後も続けていく
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の来所時には日常生活の話も提供し、よりよい関係が築けるよう支援している。	○	今後も続けていく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣であれば散歩で行ってみたり、はがきや電話のやり取り、面会などの出来るよう支援している。	○	今後も続けていく
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人ひとりの個性を尊重し、自由な雰囲気の中で交流や支え合いがなされている。また、そうなるよう支援している。	○	今後も続けていく
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	近況を報告くださったり、必要な相談には乗れるよう対応しているので、必要に応じた関わりが持てている。	○	今後は年賀状を使用したり、イベントへの参加などの案内を出してもよいかもしれない。対象の状況を把握した上で考えていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりのやり方やペースを尊重し利用者本位を保つよう努力し、支援している。	○	今後も続けていく
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族より得た情報を元にその人らしさを活かすように努めている。	○	今後も続けていく
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送りや生活記録、アセスメントなどを通して、スタッフが一人ひとりを共有して認識できるように努めている。	○	今後も続けていく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートを活用しながら、家族からの情報のやり取りをし、職員で話し合い、情報を共有しながら計画作成を行い実施している。	○	今後も続けていく
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に2ヶ月に1回の見直しを行なっている。その他、利用者の状況変化によってはこの限りではない。	○	今後も続けていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録は細やかな記載を心掛けており、記録の研修も行なわれてる。皆で情報を共有しケアに活かせる記録を心掛けている。	○	今後も続けていく
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々状況や要望に応じた支援が出来るよう、柔軟に取り組んでいる。	○	今後も続けていく
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要性に応じて協力できる支援を行なっている。消防訓練などには消防の方に来ていただくなどしている。	○	今後も続けていく
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	フォーマルサービスの利用は出来ないがインフォーマルな部分で新たなサポートがないかなど、他分野の方々から情報を得、支援できるよう取り組んでいる。	○	出来るだけ情報を収集しながら、今後も続けていく
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて、ご家族への説明など行なっている。現在のところ地域包括支援センターと共同に至る事由がない。	○	必要に応じた協働を行なっていけるよう、関わりを深めて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に受診したり、受診を希望された場合、ご家族に連絡し医療機関を受診できるよう支援している。	○	今後も続けていく
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的にご家族が付き添って受診できており、治療や相談など利用者や家族が納得されている。	○	職員が利用者の治療などについて相談する機会を積極的に設けていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護資格を有する職員がおり、日常生活を送る上で利用者や職員が相談できている。	○	気軽にいつでも相談できる環境を作り、利用者の健康管理を支援していく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の状態をご家族から聴取すると共に面会を行って情報を得、早期退院に努めている。	○	認知症という特性上、入院期間が短いケースも多いが、情報交換を密にし今後も早期退院にむけた取り組みをしていきたい。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族の考え方や意向に沿った支援方法を考えている。職員の看護師が中心に方針を話し合い、スタッフで共有できるようにしている。	○	方針を統一させ共有していくために職員で話し合う場を設けているが、全員の出席が困難なため、出席できなかった職員にも情報が正確に伝わるよう今後も努力していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師や看護師の指示の下に、ユニット内で支援に取り組んでいる。	○	今後も続けていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	移り住みの際、利用者の情報やケア方法を移行 先へ伝えている。ご家族に対しても利用者の状況 を伝え支援してもらっている。	○	今後も続けていく
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	おむつ交換時や入浴介助時、ドアを閉めたり カーテンをしたりプライバシーの確保を行なっ ている。言葉かけや対応は個々それぞれに合わせた 言葉や方法を考えて行なっている。	○	個人情報保護の徹底やプライバシー侵害の防止
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	利用者の希望を聞き、それに添った支援を行な ったり、利用者一人ひとりにあった言葉や話し方、 説明方法を考えて支援している。	○	自己判断が難しい利用者に対しての自己決定の 支援方法
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	一人ひとりのペースに合わせた支援をしてい るが、スケジュールに沿った支援になってしまうこ とがある。	○	一人ひとりのペースを大切にしつつ、家族とし てのペースも共有できるよう支援していく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	必要なものがある場合にはご家族に連絡し持っ てきていただくか、外泊・来所時に一緒に買い物 に行けるよう支援している。利用は月に一度訪問 理容を行なっているので、利用者や家族の希望が あったときはカット、パーマなど行なっている。	○	ご家族がなかなか来所できない利用者に対し て、ご家族に確認し了承していただいた利用者に ついては職員と一緒に買い物に行くなど支援の幅 を広げて行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの能力に応じて片付けに関わっている。 食事は利用者と職員と一緒に摂っている。	○	準備や片づけが義務やマンネリにならないよう支援する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	健康上の制約をふまえたうえで、飲み物おやつなどバラエティ豊かに提供している。 牛乳配達希望にも対応。お酒は希望者もなく提供していない。	○	おやつの時間に個々の好みの嗜好品を提供する。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	使いやすいトイレ環境を整えている。排泄パターンやサインにより声かけ誘導を行なっている。ポータブルトイレの併用により自立を支援している。	○	能力の変化に応じて、環境を整えることで快適な排泄を支援する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間にゆとりを持たせゆったりと入浴を楽しめるようにしている。曜日により入浴者は決めているが、希望やタイミングで変化することもある。	○	入浴時間についての個々の希望を検討する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室との自由な行き来により、状況に応じて十分な休息や睡眠を確保している。必要に応じて休息を促す声掛けを行い支援している	○	個々の生活習慣、体調を見極め十分な休息を取れるよう今後も支援する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の個々の能力が活かせるよう、手芸・掃除・食事準備・片付けなど役割を分担。日常的に散歩、お茶、レクリエーション、体操、読書などの楽しみを支援。	○	これまでの楽しみ、気晴らしに加え、レクリエーションの一環として近所での買い物も支援する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小額の小遣いを利用者に応じて所有。預り金により必要物品購入を支援。	○	利用者の状態に応じた小遣いの所有。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な外出は近隣の散歩が中心。	○	車椅子利用者や杖を使用する利用者の外出をより一層支援する。レクリエーションの一環として個別の行き先も対応。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の遠足のほか、小グループごとの外出の機会を作り外出を支援している。	○	身体能力の差による外出頻度のばらつきを軽減。家族への声掛けや依頼を含め、個別の希望への対応も行っていきたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて手紙のやり取りや電話が出来るよう支援している。	○	手紙が家族と利用者の関係を良好に保つよう支援する。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者を笑顔で迎え、積極的にコミュニケーションをとっている。利用者と訪問者との時間が居心地のよいものになるようお茶だし等行なっている。	○	職員による挨拶、コミュニケーションを積極的に図る。来訪者が来やすい雰囲気を作ることで、来所頻度の向上を図る。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束廃止委員会を設置。 日常ケアの見直しを行い、身体拘束に抵触する行為がないか常にチェックしている。	○	委員会の継続。職員全体への意識付けを行っていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける必要性もなく、利用者の暮らしになるべく制限を加えないようにしている。	○	今後も鍵は掛けない。また、ご家族・職員への周知を図り、理解を得る。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	普段の見守りはもちろん、記録の時も利用者の生活の邪魔にならないよう注意しながら、利用者把握できる位置で行なっている。	○	見守りの重要性を周知し、安全確保に努める。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況にあわせ、日頃手の届かない場所や目に付かない場所に保管するなど注意している。	○	一人ひとりにあわせた対応。今後、出現の予測される症状にも注意が払えるようにしていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書とインシジェント報告書を作成し、情報の共有に努め今後の対策を協議している。	○	事故の発生原因を知ること、事故を未然に防げることを全体で確認していく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ミーティング等を通して周知し行なうことができるようにしている。	○	すべての職員が救急法の受講が出来るよう支援していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回（5月11月）避難訓練を実施。消防の方にも協力していただいている。	○	自治会の協力も仰いで行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族との連絡を密にし、定期的な見直しを行なっていく。	○	今後も続けていく
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日1回以上のバイタルサインのチェックのほかに日ごろと違う様子が見受けられれば特に注意して観察を行ない、看護師にも対応してもらっている。	○	今後も続けていく
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用量・用法を周知し、指示通りに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認し必要に応じて看護師の指示を仰いでいる。	○	今後も続けていく
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一日の生活の中で、食事・排泄・活動状態等を見直し、自然排便を促すメニューを工夫し取り入れて行なっている。	○	今後も自然排便が促せるよう支援していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	日頃の歯磨き・義歯の洗浄には特に配慮し、口腔内に異常があれば家族了承の下、速やかに医療機関へ受診していただいている。年に1回歯科健診を行っている。	○	今後も続けていく
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを把握しながら、水分摂取も職員が記録している。	○	一人ひとりに合わせて対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルあり。看護師との連絡を密にして対応を行っている。	○	必要に応じて対応できるようにする
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、使ったまな板・包丁・ふきんは消毒し衛生管理に努めている。	○	衛生管理には十分注意し、周知徹底を図る。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	周囲に植栽を植え、玄関内には常時生花を飾り、水槽を置く等、親しみやすい雰囲気を心掛けている。受付・玄関前等では笑顔で対応している。	○	親しみやすい環境にも配慮する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく暖かい雰囲気を作るよう努力している。住みやすい環境を提供している。	○	共有空間が狭いため圧迫感があるようにも思うが、和やかな空間作りとなるよう支援していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった仲間同士で過ごせる場所を提供している。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品・装飾品等が自由に持ち込まれ入居者の生活環境・趣味などが活かされている。	○	居心地よく過ごせる居室を提供できるようご家族と協力していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調設備が整い、利用者に合った室温換気を適切に行なっている。	○	冬場に温度差が感じられる部分については、温度差が見られないよう職員が配慮できるよう努める。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要箇所には手すりが設置されており、身体機能を維持しながら、安全確保に努められるよう工夫されている。	○	機能低下に伴う変化への対応
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	清潔を保ち、錯覚を引き起こす要素については常に排除するよう努めている。		一人ひとりのわかる力を共有しながら支援する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気が良い日には、外のもの干し場に洗濯物を干しに行っている。	○	外回りの清掃活動にも参加。他ユニットの利用者との協働。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

Ⅴ. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

家庭的な雰囲気の中で、日常生活の掃除・食事作り・洗濯・散歩などを大切にしながら、入居者一人ひとりがそれぞれ出来る範囲で役割を持ち、お互いに支えあって生活をしている。